平成 26 年度

発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業

成果報告書（概要版）

実施機関名（学校法人国際学園）

1．テーマ

専門家配置による特別支援教育支援活動における教員資質の向上と，情報共有のシステム化による協働性の向上のためのプログラムの開発

2．問題意識・提案背景

星槎中学校，星槎高等学校は，開校以来，生徒一人ひとりの特性に配慮した教育を展開してきたことが評価を受け，全国教育委員会や自治体関連の文教委員会などから見学者が多く訪れている。その点から，特別支援教育のモデル校として評価を頂いているが，必ずしも全ての教職員が特別支援教育の専門性において十分であるとは言えない。教員の教科の専門性に加えて，特別支援教育の専門性のさらなる向上を図るべきだと考えている。

現在，生活面，対人面や学習面に困難をもつ生徒に対し，全ての教職員が一人ひとりの特性を把握し教育活動にあたっている。確かに，生徒に関わる情熱とその関わる度合いは多いものの，専門性の向上や，チームアプローチの向上などの必要性も感じている。

そのため，単発研修ではなく，通常授業時間に専門家を配置し，より多くの時間を生徒及び教員と関わっていくことで，向上のための課題が明確になり，そのフィードバックによって教職員自体の質も向上し，生徒たちへの教育活動も質の高いものとなるのではないかと考える。

また，学校全体で協働して取り組む際，生徒情報の共有化は必須の事項である。個別指導計画や，生徒個々のプロフィール，日々の行動記録など共有すべき事項を教職員がセキュリティーに配慮しつつ充分な活用を図ることができる仕組み作りも必要であると考えている。

本研究事業においては，これらの２つの課題を中学校，高等学校合同で研究推進委員会を組織し，特別支援教育の専門家の協力のもと，理論と実践の両面から研究を推進し，その取り組みを広く社会に還元していく。これらのことを今までの取組に加え研究していくことは，発達障害の可能性のある生徒への指導方法の改善，早期支援の在り方について，中等教育の段階での取り組みの可能性を提示できるということが提案理由である。

3．指定校について

（中学校）

指定校名：星槎中学校										
学級数及び児童生徒数										
	第1学年		第2学年		第3学年					
	生　徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数				
通常の学級	76	3	66	3	67	2				
特別支援学級	0	0	0	0	0	0				
通級による指導の対象者数	0	0	0	0	0	0				
教職員数										
校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計
1	1	18	4	6	0	2	0	1	0	33

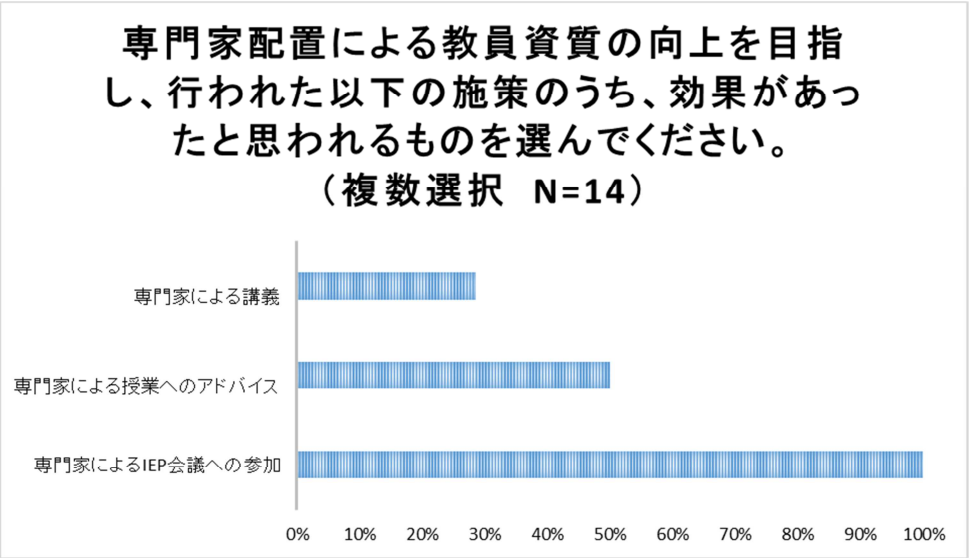
（高等学校）

指定校名：星槎高等学校										
学級数及び児童生徒数										
課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	
全日制	普通科	100	4	103	4	79	3			
定時制										
教職員数										
校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計
	1	22	1	4	0	4	0	0	1	33

4．指定校における取組概要

定期的な特別支援教育領域に関する専門家の配置と教育活動への参画
（ＩＥＰ会議，ＳＳＴ授業への参加）
特別支援教育領域に関する専門家による校内向け研修の実施
情報共有システムの開発と運用
（システムの開発と汎用化を志向したブラッシュアップ）

5．主な成果



△アンケート結果の一部

教員向け講習について，複数の種類の講習を行ったが，最も高い満足度を得る事ができたのは，IEP 検討会への専門家の参加であった。

情報共有システムについては，IEP 運用にあたり重要となるポイントを押さえた骨組みまでが成果として完成した。WISC のグラフ化や，支援の手だてのマスタ化，保護者向け生徒向けの出力機能など，重要な示唆を含んだβ版となった。

一方で，どの部分までシステム化すれば，ＩＥＰ作成の効率化が図れるか，という点の洗い出しが不十分である点，またマスタの充実が大きな今後の課題である。検討を通して，現場教員の IEP 作成に際する負担感の大きさがいかに切実なものであるか，またこの質の向上が今後の運用において重要であると多くの教職員が感じていることが改めてよく分かった。

6．今後の課題と対応

■IEP 検討会議への専門家の参加を始めとした教員向け講習の充実および要点の記録と共有。

■保護者を始めとした外部への情報発信。

■IEP 作成支援システムのさらなるブラッシュアップ

以上 3 点が次年度へ向けた重要な課題である。

指定校学内での業務分掌の再設定により，無理のない検討時間の確保を行うこと，また専門家の予定調整の前倒しにより，効果の高いと思われる検討会への重点的な配置依頼によって，これら課題に対応していく。

7. 問い合わせ先

組織名：

(1) 担当部署　　学校法人国際学園　企画課
(2) 所在地　　神奈川県中郡大磯町国府本郷 1805－2
(3) 電話番号　　0463－71－6047
(4) FAX 番号　　0463－60－3507
(5) メールアドレス　y_matsumoto@seisa.ac.jp